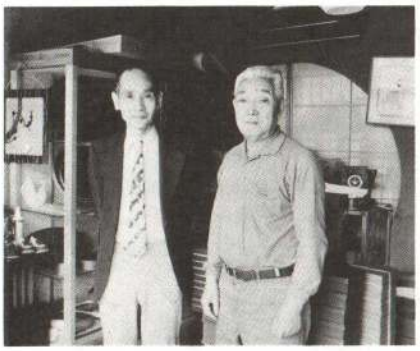
広報市民リポーターだより
第1回

# 伝統工芸と若者の働く場

リポーター　泰　震

「曲げわっぱ」は、現代に息づく伝統の素朴美、白木の優美さ、人々がひそかに求める心のふるさとです――。こんなことを考えながら「大館曲わっぱ協同組合」（組合員十三、従業員百五十人）の理事長高橋久一さんをたずね、伝統工芸の直面する課題について話を伺いました。



▶高橋理事長（右）と泰リポーター

高橋さんは「まごころ秋田観光キャンペーンのイベントの一つに、〝曲げわっぱ工芸士に一日弟子入り〟がありますが、郷土を愛する若者たちにも多く参加していただきたいものです。また、曲げわっぱの一つの拠点となるセンターがほしいものです。」と話していました。

曲げわっぱは、川連漆器、角館樺細工、秋田杉桶樽とともに国が指定した伝統工芸品の一つです。川連漆器、角館樺細工とも町をあげての応援で、技術面も販売面も軌道にのり、国内に定着化した感があります。しかし、曲げわっぱは指定されたのが遅く、昭和五十五年とのことで国内市場にのせるのが大きな問題となっています。

これらのことから次のようなことが考えられます。

**▽技術開発**

新製品、工程の一部機械化、しかも秋田杉の木目の温かさを残す、自然と機械の調和という高度なものであり、開発と、後継者の思い切った発想を大切にする。

**▽販売開拓のための全国情報網の設置**

贈答品需要と小企業の自己開拓には限界があり、構造不況地域で生きぬいている企業、自治体には圏外に耳目があります。待ちではなくふみ込んだ攻めの姿勢が望まれます。

**▽後継者育成**

賃金、職場環境など多くの問題がありますが、伝統を守る若者のため、秋田技能開発センターに伝統工芸科の新設が望まれます。

人口が少く、経済基盤の弱い中小都市は、小さくても確かな雇用の場をひとつずつ積み上げていくしかないのではないでしょうか。企業誘致（男子型）が叫ばれてからすでに幾星霜、工場を誘致し地元の人を雇ってもらうことは困難の度を増しています。

工業が農村を巻き込んで伸びていく力がなくなっているとすれば、自らが何かを興して行く以外はないのではないでしょうか。人的交流や情報交換を重ね、他の異質な地域とも結ぶこと、自治体が、企業が、市民が知恵をこらして、質のよい商品価値の高いものをつくることなど、まさに決断の時と思います。

# 豊かさと出会いを求めて

リポーター　川上理佳

大館市に転居して二年目を迎え、公共施設の充実に驚いています。その中で身近な婦人会館を体験取材。畠山さん（館長補佐）、成田さん（指導員）、虻川さん（保母）また、サークルの皆さんにお話を伺いました。

**＝女の館として存在＝**

婦人会館は、勤労婦人のみの利用の場所と疑問を持つ人が多いと聞きます。成田さんは、開口一番、「ここは、女の館ですよ」と話されました。主婦はもちろん、未婚者も利用できるとのこと、転勤者の利用が多いことは、何も知らない街で、かけこむことのできる公共施設としての役割は大きいのでしょう。

**＝託児室の利用について＝**

市内で託児室がある唯一の施設が婦人会館です。私も今回、息子（一歳半）を二時間程お願いしました。虻川さんが明るく迎えてくださいます。部屋は明るく、遊具、絵本、テレビなどが揃い、子供用トイレも隣接しています。昼寝用の布団も用意され、窓には婦人会館の方の気配りでさくをめぐらしてありました。収容定数は五人ですが、もったいないほど広々としています。「あくまで原則です。人数が多い時にはお母さんたちにも協力していただきたい」とのこと。息子も楽しそうでした。

サークルの方で「もっと早く託児室を知っていれば」と話される方がいました。確かに三十歳未満の育児におわれている方の利用者は一一%、託児室利用の平均も日に一～二人と定数より大幅に少ないことも事実です。

**＝フランクな相談室＝**

悩みの大小に関わらず……と設置された相談室ですが、年々利用者は増加しています。かけこんだとき、温く迎えてくれる場所、人があるというだけで私たちは安心できます。

**＝豊かさと出会いを求めて＝**

サークルの皆さんのお話では「ある程度の自由時間ができたこともあり、肉体的、精神的ストレス解消のため参加し、実際に交友が広がった」とのこと。主婦は狭い範囲内での生活になりがちです。婦人会館では、サークル、相談室、託児室など内容は豊富ですが、私たちが上手に選択、利用し、視野を広げて行き、更に明るい家庭を築いていけば、まさしく六十二年度婦人会館のテーマ「豊かさと出会いを求めて」になって行くのでしょう。

最後に、成田さんが「主婦が遊ぶ権利はありますが、それに感謝する心を忘れてはいけませんね」と話していました。この気持ちが長続きしていく原点かもしれません。

▲託児室を見る川上リポーター

◇婦人会館利用者年齢層

◇「広報市民リポーターだより」は今回から毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載していきます。